

第二宮、第三宮、末社

宗像大社は、2つの島と九州本土の神社を含む広大な地域に及びます。沖ノ島の沖津宮は立ち入り禁止のため、3つの神社すべてを参拝することはできません。大島の中津宮は一般公開されていますが、フェリー以外に行く方法がありません。三社全てへ参拝が容易に出来る様に、三女・市杵島姫神が祀られている辺津宮の背後に、島に祀られた二柱のそれぞれの末社が建てられています。

旅の守護

第二宮は長女・田心姫神を祀り、第三宮は次女・湍津姫神を祀っています。日本神話では、太陽神・天照大神の娘の三人は海路を守護することで知られており、後に全ての旅路を守護することで崇敬されるようになりました。このようにして、姉妹神はあらゆる移動手段の交通安全祈願を象徴するようになりました。

伊勢神宮との関わり

辺津宮のこれらの末社は、1978年に伊勢神宮(天照大神を祀る)より移築再建されました。伊勢神宮の20年に一度の新社殿の造営に併せて下賜されました。伊勢神宮特有で古代の建築様式・唯一神明造の代表例で、フォーク状の木製の頂華と金属で覆われた木製の留め具を用い、急勾配で傾斜したかやぶき屋根や板張りの屋根が特徴的です。